

背景と目的

近年、社会情勢の変化によって、文化財の保存活用の担い手が不足したり、文化財が散逸、滅失したりする恐れが増大してきました。また、地域文化財の掘り起こしや観光やまちづくりへの活用など、地域活性化への文化財の役割も増大してきました。

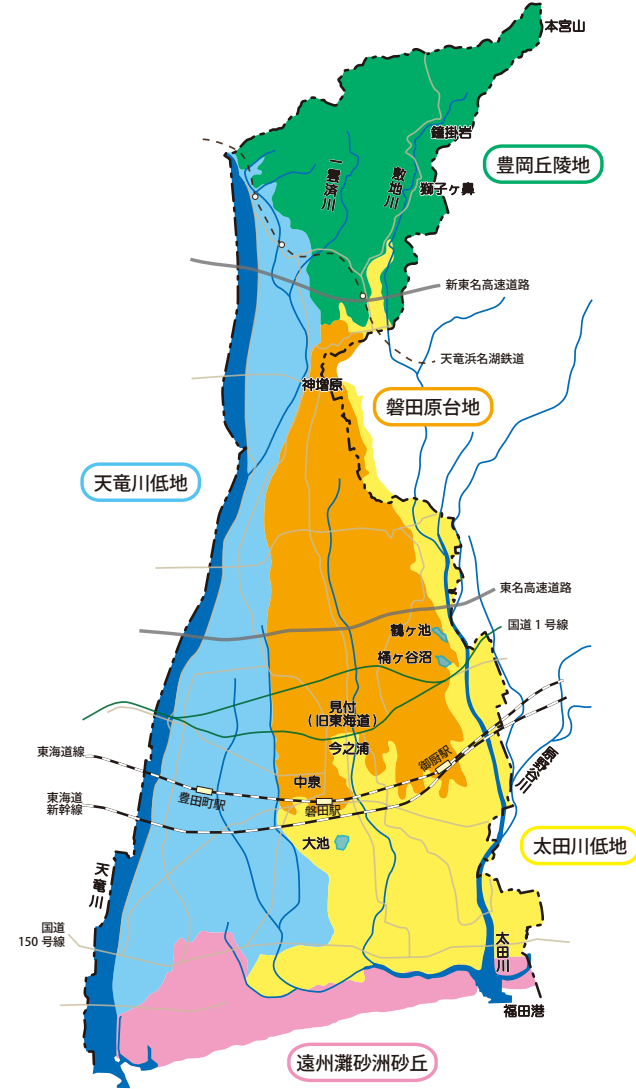
そこで、平成31年4月に施行された改正文化財保護法に基づき、磐田市の文化財の保存と活用の基本的な方針をまとめ、今後9年間の具体的な取り組みを示す計画を作成しました。

計画に沿って文化財保存活用の取り組みを実施し、磐田市が目指すまちづくりの大きな柱のひとつである、「市民が誇れる自然と歴史・文化のまち」の実現を目指します。

磐田市の概要

静岡県西部に位置します。面積は163.45km²、東西約11.5km、南北約27.1kmで、人口は約17万人です。平成17年に市町村合併し、現在の市域となりました。

市の北部は豊岡丘陵地、中央には磐田原台地が広がり、東西には太田川、天竜川によって形成された低地が広がります。南は旧河川の自然堤防と台地南端にはさまれた遠州灘砂州砂丘が発達する海岸地帯からなります。



磐田市の歴史文化の特徴

■時代ごとの概要

○イワタの誕生と発展(原始・古代)

磐田原台地上には、旧石器時代遺跡と古墳が多数分布します。古墳の規模、数、副葬品などは県内においては特に秀逸です。奈良時代になると、国分寺と国府が置かれました。

○源平の悲恋、今川の盛衰、そして家康へ(平安～中世)

平安～中世の磐田は、国府・守護所が置かれ、交通の要衝としても栄えました。戦国時代には見付が自治都市として栄える一方、市内は、徳川・今川・武田の抗争の舞台となります。

○交通・治水開発とにぎわい(近世)

徳川家康が東海道を整備し、見付宿が置かれました。市内の大半は天領・旗本領となり、中泉陣屋が置かれました。新田開発がさかんに行われ、寺谷用水が引かれます。

○教育のまちから戦争へ、戦後の再出発(近現代)

明治時代になると、浜松県のちに静岡県となります。遠州三大学校と称された見付学校、西之島学校、坊中学校が建設されました。

指定・登録文化財件数

指定文化財				合計	登録文化財	
国	県	市	国			
8	18	131	157	17		

地域ごとの概要

歴史文化の特徴から、以下の9つの地域に区分して、地域的なまとまりを捉えました。

A 敷地・野部・広瀬地区



戦国のお城と
大念仏の里

◀社山城跡

B 向笠・大藤・岩田地区



「むかさ」と「さぎさか」
古墳と武将の里

◀向笠伯耆守五輪塔

C 富岡・池田・井通地区



家康をたすけたまち
願いをかなえる観音さま
から渡船場へ

◀池田やかた祭り

D 見付地区



遠府(※)の地
宿から宿場へ
※遠江府中

◀見付天神裸祭

E 中泉地区



復活と再生のまち
国府と国分寺、
磐田市のまほろば

◀府八幡宮楼門

F 田原・御厨・南御厨・西貝地区



古都・御厨
神が宿る里

◀鎌田神明宮

G 十束・掛塚・袖浦地区



お江戸を支えた材木と
米

◀旧津倉家住宅

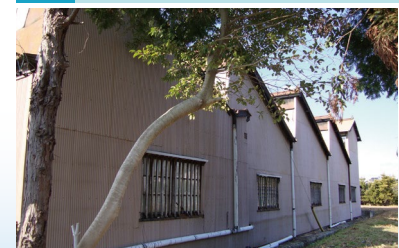
H 於保・天竜・長野地区



治水と利水のはざま
で美女伝説の里

◀傾城塚

I 福田・豊浜地区



ガチャマンと
ノコギリ屋根
別珍・コール天の
ふるさと

◀織物工場

文化財保存活用区域

地域ごとの概要で区分したD見付地区と、G十束・掛塚・袖浦地区のうち掛塚地区の、2か所を文化財保存活用区域としました。

■神社 ■寺 🏮 灯籠 🏹 火の見櫓

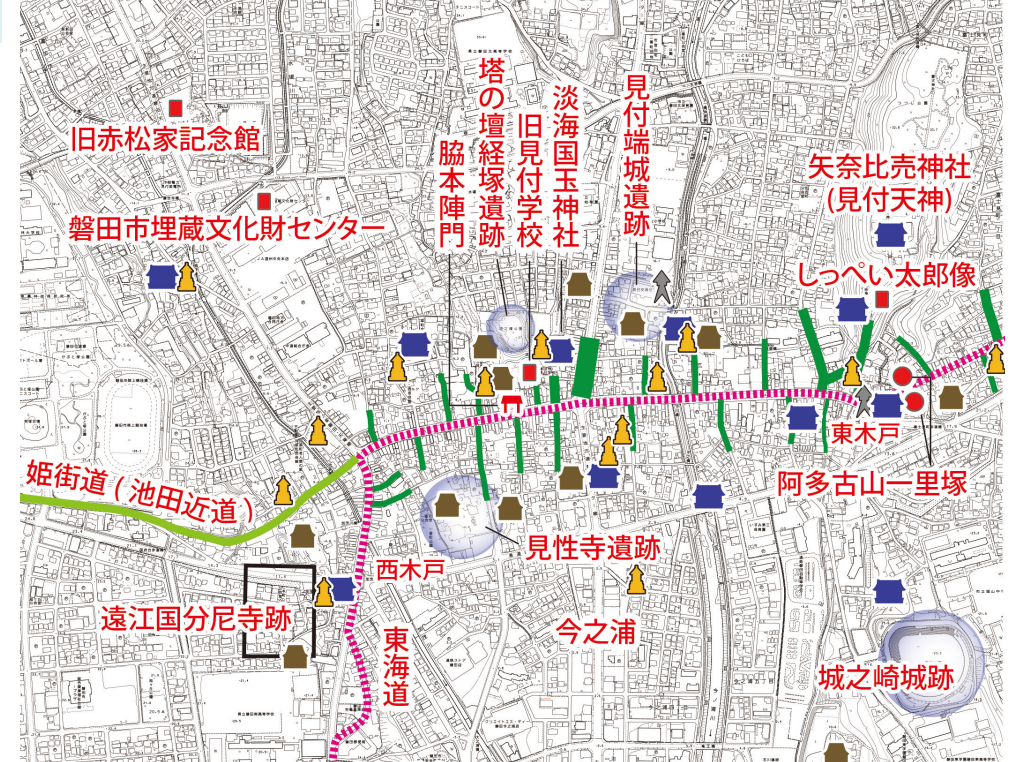
見付地区

保存活用の取り組み

- 旧見付学校・旧赤松家保存活用計画作成
- 文化財の調査・研究
- 民間団体の活動支援
- 旧見付学校・旧赤松家での企画展やイベントの実施
- 見付天神裸祭支援・記録映像活用
- ボランティアの育成
- 文化財散策マップ作成



いわた大祭り



掛塚地区

保存活用の取り組み

- 掛塚祭支援・記録映像活用
- 旧津倉家修理工事計画作成
- 民間団体の活動支援
- 歴史的建造物把握調査
- 歴史的建造物の公開
- 歴史文書館や竜洋郷土資料館での企画展や歴史学習会の実施
- 文化財散策マップ作成



旧掛塚郵便局

